

4 救命救急センター



主要傷病別患者数

西宮市、尼崎市を筆頭に阪神地区全般からの救急要請に対し受け入れている。

県内でもTop3に入る規模で重症の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている。

通常救急に関しても新型コロナウイルス感染症受け入れのためベッド数の制限はあるが、外傷、熱傷、敗血症などの重症疾患を受け入れている。

病院前診療

阪神医療圏には他医療圏と比較し多くの施設でドクターカーが運用されている。そのため、多くのドクターカー症例で本来の目的からかけ離れた症例での出勤も散見される。私どものドクターカー運用は、その本来の目的である「救急初期診療の早期介入により、救命率が上昇し、後遺症が改善される」ことにこだわりたいと考えている。そのために「救急初期診療の早期介入」の本質を見直し、もっと現場で介入出来ること、または、むしろ積極的に現場で介入しないこと、を学問的に明らかとし、適正な地域のドクターカー運用を提言していく。

院内災害訓練

院内訓練を継続し、南海トラフ地震を想定した各診療科とDMATを交えたタスクフォースへと発展させたい。

今後の治療方針

① 2025年問題

来たる2025年の高齢者人口のピークに合わせて、必ずしも積極的な治療のみが患者とその家族のニーズに応えるものでは無くなっており、今後社会の動向に合わせて検討が必要である。

② 地域の、そして大学の救命救急センターを目指す

当センター医師の派遣先病院(県立西宮病院、宝塚市立病院や川西市立総合医療センターなどの阪神医療圏内のみならず、医療圏外のJCHO大阪病院やJCHO大阪みなと中央病院)から、重症患者の集約を目指し、地域全体の救命救急センターとして貢献する。また、救急医療過疎地域に公平公正な救急医療の質を届けるために、積極的に医師の派遣や現場医師、看護師への助言、提言によるチーム医療の指導・育成を行い、大学の救命救急センターとして貢献する。

③ 新型コロナウイルス感染症の対応

適正な感染防止策を講じながら、重症の新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを引き続き行い、ECMOや人工呼吸器などを用いた高度集中治療を提供する。

4-1 月別入院患者状況

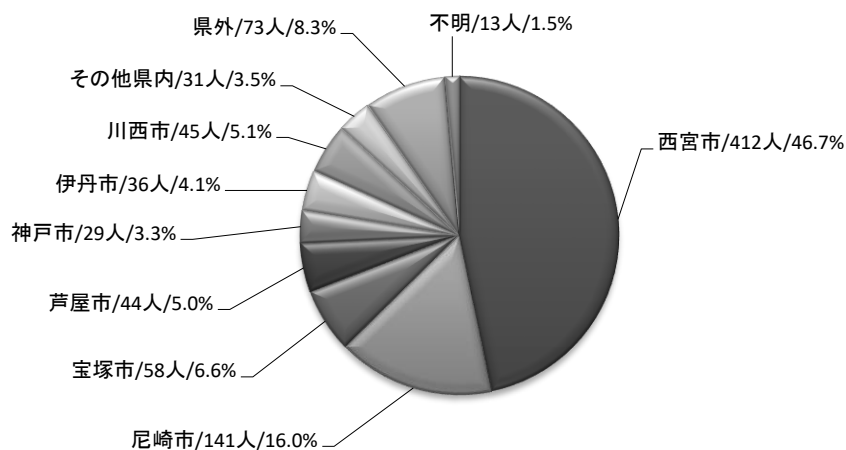
(人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
診療日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
E I C U	新入室	108	72	97	96	84	77	86	106	124	109	109	105	1,173
	転入	2	2	3	9	5	6	7	6	11	21	15	19	106
	退院	39	27	23	11	13	19	22	23	31	27	46	31	312
	転出	65	53	82	89	70	67	72	85	108	94	80	92	957
	延在室	367	416	241	247	360	384	275	254	302	397	370	406	4,019
	一日平均	12.2	13.4	8.0	8.0	11.6	12.8	8.9	8.5	9.7	12.8	13.2	13.1	11.0
	利用率(%)	68.0	74.6	44.6	44.3	64.5	71.1	49.3	47.0	54.1	71.1	55.1	54.6	
	稼働率(%)	87.2	88.9	64.1	62.2	79.4	87.0	66.1	67.0	79.0	92.8	73.8	71.1	
救急 病棟	新入室	11	4	7	4	3	2	4	2	2	1	3	1	44
	転入	47	29	48	60	38	37	41	41	69	55	43	56	564
	退院	19	13	15	20	13	12	15	13	33	17	12	20	202
	転出	33	26	37	41	31	28	27	33	43	37	33	38	407
	延在室	367	282	347	367	373	336	419	440	475	451	436	505	4,798
	一日平均	12.2	9.1	11.6	11.8	12.0	11.2	13.5	14.7	15.3	14.5	15.6	16.3	13.1
	利用率(%)	51.0	37.9	48.2	49.3	50.1	46.7	56.3	61.1	63.8	60.6	86.5	90.5	
	稼働率(%)	58.2	43.1	55.4	57.5	56.0	52.2	62.0	67.5	74.1	67.9	95.4	100.9	

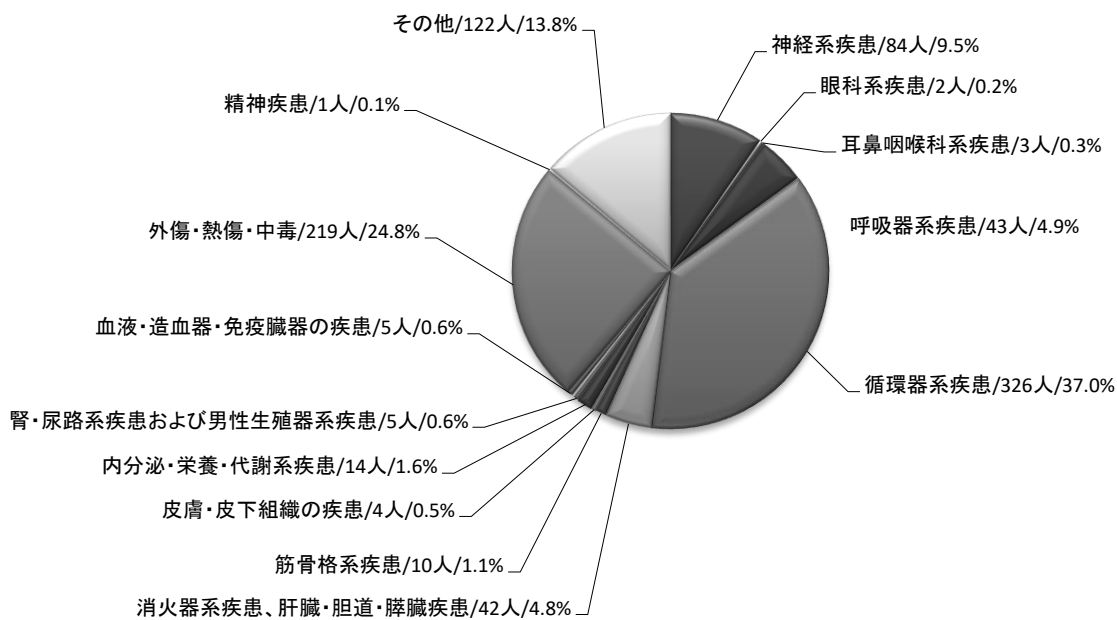
※EICU18床、救急病棟24床だったが、新型コロナウイルス感染症に係る特例措置のため、2021年2月以降はEICU24床、救急病棟18床となった。

利用率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数}}{\text{実働延病床数}}$	稼働率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数} + \text{退院(室)転出患者数}}{\text{実働延病床数}}$
--	--

4-2 2021年度住所地別患者数の構成比率(合計882人)



4-3 2021年度主要傷病別患者数の構成比率(合計882人)



4-4 2021年度年齢別患者数の構成比率(合計882人)

